

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和2年8月4日(火) 開 会 午後 3時30分
閉 会 午後 5時00分
2. 会 場 茅野市役所 8階 大ホール
3. 出席者 市長 今井 敦 教育委員長 山田 利幸
職務代理者 矢崎 靖雄 教育委員 濱 勝之
教育委員 永嶋 陽子 教育委員 勅使川原はすみ
出席職員 企画部長 加賀美 積 こども部長 有賀 淳一
生涯学習部長 北沢 政英 企画財政課長 小平 雅文
地域戦略課長 田中 裕之 こども課長 五味留美子
幼児教育課長 柳澤 澄子 学校教育課長 五味 正
生涯学習課長 藤森 隆 文化財課長 五味 健志
スポーツ健康課長 中村 浩明 教育総務係長 立石 淳二
学務係主任 上田 拓也 教育総務係主事 牛山 紘貴
4. 傍聴者 3名

茅野市総合教育会議次第

令和2年8月4日(火) 午後3時30分～
茅野市役所 8階 大ホール

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 第2次茅野市総合戦略とこれからの教育について

(2) その他

4 閉 会

学校教育課長

ただいまから、茅野市総合教育会議を開会いたします。

会議の開会にあたり、この会議の公開・非公開についてみなさまにお諮りします。

茅野市総合教育会議運営要綱第6条に基づき会議を公開したいと考えます。なお、茅野市情報公開条例第6条第2号に該当する個人を特定する事項がある場合は非公開としてよろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

学校教育課長

それでは公開とします。

はじめに、今井市長、ご挨拶をよろしく願いいたします。

市長

本日は大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

茅野市は今、コロナ禍という事で、教育行政においても、難しい舵取りを強いられていると思います。そのような状況下でも、子どもたちの学力をきちんと維持し、かつ健全に育っていてもらうことを願い、一生懸命知恵を絞って頂いているところです。

本日は、茅野市総合戦略のご説明を教育と絡めながら、皆様からのご意見をいただき、今後の茅野市の教育に活かしていければと考えております。

よろしく願いいたします。

学校教育課長

ありがとうございました。この後の議事につきましては、今井市長に進めていただきます。よろしく願いいたします。

市長

それでは、はじめに第2次茅野市総合戦略について、地域戦略課長から説明いたします。

地域戦略課長

第2次茅野市地域創生総合戦略について、ご説明させていただきます。

本日のお手元の資料は概要版として、抜粋したものになっております。こちらの資料に基づきまして、ご説明をさせていただきます。

2ページをご覧ください。第2次茅野市地域創生総合戦略の位置づけにおいては、本市の最上位計画である「第5次茅野市総合計画」を基本に、人口減少の克服に特化した、政策横断プロジェクトとして策定しています。

茅野市地域創生総合戦略は、第2次茅野市総合戦略と第2次茅野市人口ビジョンからなっています。

人口ビジョンについては、国立社会保障人口問題研究所という機関が、これから40年後の

人口がどう推移していくか、推計をした資料です。それによると、茅野市の人口は現在、5万5千人いますが、40年後には3万9千人程度に減少する推計となっています。

問題は、人口が減少することではなく、老年者人口と、それを支える生産年齢人口の比率が1対1となることです。そうならないためにも、2060年時点の人口を4万6千人程度確保していきたいと考えております。

3ページをご覧ください。基本的な考え方として、総合戦略が目指すまちの姿は、若者に「選ばれるまち」の実現を目指すとしています。これは、お年寄りはどうでもいいという事ではなく、支える側がいなくては、結果的にお年寄りにとっても暮らしづらいまちとなってしまいます。

若者を増やすためには、茅野市への流入を考えていかななくてはなりません。若者が流入することで、結果として、子どもからお年寄りまで暮らしやすいまちとなります。

4ページには若者に選ばれるまち構想として、計画に携わって頂いた市民の方からご意見をいただき、構想を絵で表したものになります。

これからのまちづくりには、最新のAI・IoTの技術を活用することによって、皆さんが暮らしやすいまちにしていくことを、基本コンセプトとしています。

付加価値のあるまちづくりをすることで、そこに観光で来るお客さんを増やし、若者の移住・定住を促す環境づくりで、茅野市の人口を増やすことを目指しています。

5ページをご覧ください。施策展開の基本コンセプトとして、5点の施策にまとめています。基本コンセプトにおける考え方を実現するため、茅野市を知り訪れ、茅野市に通い、茅野市に移り住むという人の流れを意識し、基本目標を施策として展開するとともに、複数の基本目標にまたがる横断的施策を設定しています。

8ページをご覧ください。基本目標1として、知りたい、訪れたいまちをつくるために施策パッケージを設けています。茅野市の認知向上に向けた情報発信、観光の活性化に向けた環境整備、茅野市への来訪に向けた誘客促進などを考えさせていただいています。

数値目標は令和6年時点で市内観光地延利用者数3,367,000人を目指しています。

9ページをご覧ください。基本目標2として、通いたい、帰りたいまちをつくるために、関係人口の増加に向けたつながりの創出、地域への愛着や誇りの醸成といった施策パッケージを考えさせていただいています。

10ページをご覧ください。基本目標3として、移り住みたい、住み続けたいまちをつくるために、魅力ある雇用・産業の創出、就労支援と労働環境の整備、移住・定住情報の発信や住まいの支援といった施策パッケージを考えさせていただいています。

11ページをご覧ください。基本目標4として、安心して出産・子育てができるまちをつくるために、結婚・妊娠・出産の切れ目ない支援、安心して子育てができる環境の整備、子育て世帯への経済的支援といった施策パッケージを考えさせていただいています。

また、横断的な施策として、多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造、暮らしやすい未来都市・茅野の構築といったものがあります。とくに、これからのまちづくりには、AI、IoTが欠かせないものになってきます。そういった産業をこれから創出していくことによって、基本目標3に掲げる、魅力ある雇用や産業の創出に関連してくると考えています。

これからの教育の中でもIT技術の勉強などを進めていけたらと感じます。

続いて、12 ページをご覧ください。基本目標5として、安心・安全、快適なまちをつくるについては、暮らしやすい環境の整備・充足、地域で支え合う安心・安全なまちづくりといった施策パッケージを考えさせていただいています。

13 ページをご覧ください。横断的施策の多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造では、個性や得意分野を活かし働くことができるような雇用を創出することで、新たな産業を生み出すとともに、茅野市の子どもが茅野市に住み続けることを目指していきたいと思います。

第2次茅野市地域創生総合戦略の説明については以上となります。

市長

ありがとうございました。総合戦略の説明を見てみると、高齢者のことについては詳しく書かれていません。この説明は全く考えていないわけではなく、ここで展開する施策を行っていくことで、結果的に高齢者の方も暮らしやすい地域になることを考えています。

茅野市総合戦略は先程も説明があったとおり、人口減少率を抑えていく必要があります。そのためには、地元の子どもたちが、市外に行ってしまうのではなく、この地域で最終的に働き、子どもたちを育ててほしいという思いがあります。

その上で、他地域から茅野市に移り住んでもらう方をもっと増やしていきたいと考えています。

できるだけ地域のコミュニティが維持できるような形をつくることを目指し、茅野市地域創生総合戦略を策定させていただきました。

続いて、ICT教育の現状と課題と今後の方針について説明をお願いします。

教育長

先程、第2次茅野市地域創生総合戦略について説明がありましたが、そちらの資料6ページ目をご覧ください。

基本目標4「安心して出産・子育てができるまちをつくる」の子育てができるまちをつくるという部分と、横断的施策4「多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造」の部分が、いわゆるオンライン教育にも関係してきます。この大きな枠の中で、考えていきたいと思います。

既に昨年度説明をさせていただきましたが、お配りしたレジメの最後に表を記載させていただいています。「生涯を通じて学び続け未来を切り拓く、心豊かなひと育ち」を基本政策とし、「自分の人生・自分たちが生きていくまち・未来をえがく」ことを生涯学習、学校教育も含めた基本的な方向と考えています。

さきほど、市長さんよりご説明がありましたが、「このまちで生きていく」そのために、必要な仕事も創っていただくことで、より大きな枠の中でICT教育を考えています。

この表のイメージを頭に置いていただき、私たちが考えるオンライン教育の課題と展望、イメージ図について、試案ではありますが、ご説明をさせていただきます。

目指す姿の1つ目がオンライン教育（遠隔教育）により、学びの継続性を担保し、子どもたちの学びの豊かさ・確かさの保障を目指しています。

2つ目が日々の学習や家庭学習等に位置づけ、個別の課題等により学びの多様性をつくりだすことです。

I C Tを今後長期休み中に活用したとき、今あるものがさらに伸びていき、学びの多様性をつくりだすのではないかと考えています。

市長さんが一昨年から言われている、ギフテッド教育の問題についても有効にはたらくてくると思います。

7月2日付けで文科省から初等中等教育におけるこれからの学びの在り方について文書が発出されました。

その中で、個々の才能を存分に伸ばせる高度な学びの機会など、新たな学びへの対応について、方向が示されました。ギフテッド教育とっていたものが、現在の段階で正式に位置づけられてきています。

茅野市教育での位置づけは、先程ご説明させていただきましたとおり、茅野市教育の中の大きな枠組みにI C T教育を位置づけていきます。縄文市民科を中心とする体験活動をベースとして展開し、その上でオンライン教育を推進していきます。

現在まで推進してきた授業でのI C Tの効果的な活用やプログラミング教育を基板として、子どもたちの学びの継続とその豊かさ確かさを、基本的な方向とし今後加速させます。

オンライン教育が目的化されるのではなく、子どもたちの学びの「ツール」としていき、子どもたちのより豊かで、確かな学びにより、教育の多様性に対応していきます。

次にオンライン教育推進上の課題と解決策についてですが、ハード、ソフト、人材、制度・政策といった4つが、今回の休校中に課題としてみえてきました。ハード面については、各家庭におけるインフラ整備です。こちらについては、調査を実施し、W i - F i ルーターの貸出や通信費など様々な課題がありますが、一人一台のタブレット配備は年度内に完了します。

別資料として用意した、新型コロナウイルス感染症へのI C Tを用いた学習保障等の対応についての2ページ目をご覧ください。

表の中に児童生徒状況区分分けとあります。状況を区分分けし、家庭で家庭の端末を使う、家庭で学校の端末を使う、公共機関で学校の端末を使う、貸出ルーターで学校の端末を使うといった4つに区分できます。具体的に説明すると、1人1台家庭でタブレットを必要とした場合、約2,500台足りません。また、各家庭単位で必要とする場合、約1,500台不足します。

学校、教育委員会で所有しているタブレットが約1,600台あります。そうした中、1人1台としたときに、約900台から1,000台不足しています。それをG I G Aスクール構想で年度内に1人1台配備することを目指しています。

一方で、W i - F i環境になりますが、W i - F i環境の無い家庭が約520件ほどあります。分散型の登校などにより、近くのW i - F iスポットや学校のW i - F i環境により最悪の場合、実施する必要があります。ただ、それでカバーすることができると思います。

1ページ目をご覧ください。具体的に学校ではどんなことをしていかなければいけないのか、各家庭には何をお願いしていかなければいけないのか、簡単ではありますが、まとめられています。

現在、こちらの資料のとおり、学校差はありますが、学校、家庭で進めているところです。技術的な面での課題はこのような取り組みにより、解決の方向に向かっています。

2つ目のソフト面の課題についてご説明させていただきます。

4つの課題があり、「学習の質」の担保の難しさ、子どもたちの緊張感やモチベーションの低下、教師の支援・指導がタイムリーにできない、情報モラル教育の一層の推進などです。

そういった課題解決のためにオンライン教育をどのように進めていくのか、次の3で説明をしたいと思います。

人材の教職員において、オンライン教育になれていないことや、個人差の大きさなどがあるのが事実です。また、先生たちのICT教育の経験の少なさや、機器の活用や保守についての知識不足があげられます。

そうした中、無理をすることなく、「教員一人一人が自分のICT教育を創り上げていく」というトーンが必要であると考えます。

次に4制度・政策等についてです。

1つ目はハード面の整備と機器活用への支援、2つ目は授業のあり方・要件の見直し、県と連携した授業支援、3つ目は研修・養成体制づくりなどの課題があり、課題解決のために、1つ目は市教委に「ICT教育サポートセンター」の設置を考えています。現在、ICT支援員が2名、ICT担当指導主事が1名、GIGAスクールの支援員、残りのICT支援員2名については、現在人材を探しているところです。合わせて6名から7名の支援センターの立ち上げを目指しているところです。

2つ目の解決には、研究・研修体制づくりとして、中心となる指導者の招聘や研究・研修体制の再構築を目指して進めています。

3つ目の解決には、ICT教育研究・支援体制の充実として、東京理科大、日本生徒指導学会、信大、商工会議所との連携を強化していく必要があります。

そうした中、休校中に茅野市として見えてきたICT活用の課題が4つあります。

1つ目がリアルタイム授業配信型や録画授業動画の配信、ドリル形式アプリの方法だけでは、子どもたちのモチベーションや学びの主体性・深さという点で限界があります。また、県立学校の実践からも、この点での「格差」が生まれたとの報告がありました。対面型や協働的な学びを可能な限り、また効果的に取り入れる必要があります。

2つ目が技術的な課題よりも、ソフト面の面では、義務教育での実践が全国的にも累積されている事例が少なく今後の大きな課題です。同時に、教職員の研修と力量のアップが必要です。

3つ目が「遠隔教育」の実施を目的化するのではなく、学びの主体である子どもたちを中心に置くこと。教師主導型の授業観から、子どもの学びを中心に置く、学習指導要領の考え方の授業への転換が必要です。

4つ目が家庭生活の確立という点で課題が見えてきました。

現在考えている、オンライン教育、遠隔教育の方法としては、対面指導や協働学習を基盤におきます。学習指導だけでなく生活・生徒指導の側面にも関連付け、平時でのICT教育が遠隔教育の質を決定づけるものだと考えます。

表の子ども（遠隔教育）をご覧ください。

4つの方法があり、1つ目がリアルタイム授業の配信です。こちらは、寺子屋すくーるバージョン1で実験済みです。その他には、Zoomやロイロノート等があります。

2つ目が録画授業動画の配信です。こちらは、ビーナチャンネルやビーナネットを活用し、約80本の動画を配信しました。

3つ目がドリル形式アプリやeラーニング等を活用した中学校もあります。

4つ目がオンラインでの協働学習です。

以上の4つの方法を使い分けて、学校の先生の指導の下、対面的な要素を可能な限り取り入れていきます。その上で、必要に応じては、紙ベースの課題と指導や、「書いて考える」学びを主に分散登校時に取り入れていきます。

また、協働的な学びとして、友や先生とかかわる学びを分散登校時に取り入れていきます。

以上のことをサイクルとして取り入れ、子どもたちの立場に立った、遠隔教育を進めていきたいと考えています。

「平時」でのICT教育が遠隔教育の質を決定づけることについては、次のページをご覧ください。

こちらの表は、第1次茅野市ICT教育アクションプランの教育内容系統表になります。

この下で、2年間ICT教育を進めてきました。次のページの資料に普段の授業で、どのように活用しているか例を挙げています。対話的な学び、深い学び、主体的な学び、を意図した、単元の構成の工夫等を普段の授業で行っています。

次のページをご覧ください。ICTを活用した指導方法の開発について、展開例の表です。一斉学習、個別学習、協働学習では、それぞれどのような方法があるのか、説明されています。

今、説明させていただきました、2枚の図のようなことを、日頃から活用していったときに、遠隔教育の基盤ができるのではないかと思います。

具体的には、既に様々な準備が進められていますが、本日もICT担当の指導主事が市内の学校に出向き、ジャストシステムを活用した研修会を開いています。

今回のコロナの影響で、オンライン教育がかなり加速している状況です。茅野市の計画では、4年から5年で加速させる計画となっています。

説明については、以上です。

市長

ありがとうございました。先に総合戦略についても説明がありましたが、両方に共通するものとして、まず我々が頭を切り替える必要があります。ハード面については、揃えることは簡単ですが、それをきちんと使いこなせるようにしていく必要があります。

その先に遠隔教育や遠隔診療などがあるのだと感じます。

ご説明していただいた、2つの話題には、同じような課題があるのだと思います。一通りの説明をしていただきましたので、ご質問やご意見等をいただければと思います。

矢崎委員

先程、教育長よりご説明がありましたが、人材の確保について、これからの見通しはどのように立っているのでしょうか。

教育長

昨年度からいくつかの研修を指導主事が学校に出向き行っています。

その中で、人材を育てていくしか方法はないと思います。

例えば、県のほうで3日間の研修を全員に受講してもらうようなことをしないと、全県的に見た時に格差が出てしまうと思います。そのような事から、県にも協力をしていただき、連携して進めていきたいと思っています。

矢崎委員

先程、教育長からも説明がありましたが、是非、市の中にも体制を構築するチームのようなものがあれば、ありがたいと思います。

教育長

是非、そのような体制を創り上げていきたいと考えています。

濱委員

矢崎委員さんのご意見のとおり、私からも是非、庁内に専門の部署をつくっていただければと思います。教育だけではなく、庁内の関係を一括管理できるような部署があってもいいのかなと感じます。

コロナ禍で悲観されることが多いかと思いますが、コロナの後押しにより、ICTが加速したと前向きに捉え、茅野市が先進的に進んでいってほしいなと思っています。

市長

庁舎内の一元管理がなかなかうまくいかない部分もありますが、先進的に進めていけるよう、検討していきたいと思っています。

勅使川原委員

学校の先生によっては、大型テレビを使うことすら、完全に定着していないような様子もあります。

そのようなことから、今回の計画は学習環境においてもかなり大きな変化だと思います。また、これからの茅野市にとっても、かなり進んだ教育になるのではないのでしょうか。県での研修も必要かと思いますが、茅野市独自の研修を早急に、先生たちへ受けていただくことも必要かなと思います。

また、茅野市のICT教育では、各家庭へまだ浸透しきれていないところがあると思います。茅野市の教育はどういったところに力を入れていくのか、しっかりお示しをし、ご理解いただけるように、声を大きくして伝えていってもいいのではないかなと思います。

整備の面ではWi-Fi等の環境整備を、教育のみではなく旅行者や市民も対象とし、茅野市全体でFree Wi-Fiが繋がるような環境に整備していかないと、進んでいかないと思います。それについては、令和6年を目標と説明がありましたが、どのようにお考えでしょうか。

教育長

研修のほうからご回答をさせていただきます。

現在、茅野市では県教委に任せっきりという訳ではなく、市独自でも研修を行っているところですが、しかし、ある程度のレベルまでいくと、県にお願いしていく必要があると思っています。

学校の先生は4分の1から5分の1が3年から4年で異動になってしまいます。研修を沢山積んだとしても、新しく配属となった先生によっては、初めて大型テレビやタブレットを扱うといった先生もいらっしゃいます。そういった面からも、県での研修は必要だと感じています。

ただ、勅使川原委員もおっしゃったとおり、市独自の研修にもさらに力を入れていきたいと思っています。

地域戦略課長

Free Wi-Fi の件については、茅野市に観光で来ていただくお客さんを対象としたとき、今の若い方はWi-Fi 環境が無いところには行かないというような話があります。

現在、市の公共施設にはWi-Fi 環境は整っていますが、お子さんが使えるように各家庭へのWi-Fi 整備を進めるとなると、規模が膨大となってしまいます。また、茅野市は、エリアが広いことから、全域をカバーしていくことが難しい状況にあります。

狭いエリアであれば、スポット的に整備することは可能かと思っています。

勅使川原委員

市内にはFree Wi-Fi のスポットは、公共施設以外にどのくらいあるのでしょうか。

場所によっては、繋がらない場所等もありますので、それを繋がるように増やしていこうとしているのかどうか、お聞かせください。

地域戦略課長

Free Wi-Fi を設置している公共施設以外の店舗では、お客さんを誘致するために、設置数が増えてきている状況です。その部分に対して、行政としての支援は行っていません。民間の方々の意思で設置していただいているという段階に留まっています。

具体的に設置している店舗数などについては、把握をしておりません。

勅使川原委員

観光施設については、県や市からの補助が以前にあり、Wi-Fi 環境の整備は進んだと思います。また、学校や公共施設にはWi-Fi 環境が整っていることから、観光客が来た時には、繋がらずに困るところが無いという捉え方でよろしいでしょうか。

地域戦略課長

観光客の目線から考えると、特別困るといったことは無いと思います。

教育長

現在、各学校にお願いをし、学校に登校しなくても、Wi-Fi が使えるような場所の貸し出しをしていただいています。公共施設のスポットに多く集まりすぎてしまうと、分散したほうがいいこともあるので、臨機応変に対応していきたいと思います。

勅使川原委員

ポケット Wi-Fi のようなものもありますが、そういったものを最終的には、各家庭で準備していただけるようになればいいですが、現在はすぐに準備できない家庭もあると思います。市教委でポケット Wi-Fi のような価格の安いものを最初のうちは貸し出すといった方法はどうでしょうか。

上田主任

その内容につきまして、国の方からモバイルルーターの貸し出しを計画する場合には、補助金を交付するとの通知があり、交付決定を既にいただいています。現在は、モバイルルーターの購入準備を進めているところです。

永嶋委員

勅使川原委員も発言されたとおり、ゆくゆくは各自で揃えていく必要があると思います。モバイルルーターも文具の一種だという考え方でいいと思います。また、文具の一つとして捉えていくのであれば、これを使ったオンライン授業をどんな風に工夫すれば子どもたちが聞きやすいかなど、ソフト面の方がとても難しい課題が多いように感じます。ハード面でのルーターの購入などは、文具として捉えていますので、強制的な部分が少しはあってもいいようにも思います。また、今後茅野市でも感染症が蔓延するような状況になってきたら、校長会などもできなくなってしまうと思います。そういった時にオンラインでの集会在主になってくると思いますので、なるべく早急な対応が必要かなと感じます。

文具の一部という感覚を持っていただくためには、お家の方の「準備しないと自分が困るんだ」といった危機感が必要ではないでしょうか。

そのような事も含めて、市民の方みんなが使うルーターという感覚で揃えていただければいいなと思います。

地域戦略課長

茅野市総合戦略の4ページの資料にもあるように、スマートフォンを活用し、町の至るところで何でもできるような世の中を目指しています。それを実現するためにも、スーパーシティといった制度も活用しながら、未来都市をつくっていきたいと思います。これからの時代は、モバイル端末が無いと格段に暮らしづらい世の中になってしまうと思います。

そこは、ご自身で率先して購入していただき、持っていないと困るんだと思うような施策展開をしていきたいと考えています。

矢崎委員

先程、市長からの説明で、市の要望を県に挙げるといってお話がありましたが、県議会議員の方に対して、茅野市総合戦略の説明などはあるのでしょうか。

市長

基本的には、県議会議員さんには説明はしていません。仮にそのような方向で進めていくことになりましたら、まずは、準備をしっかりとしていきたいと思います。

矢崎委員

総合戦略の冊子についてですが、5年後には計画が大きく方向転換する場合もあるかと思っています。そういった場合には、見直しなどはしていく予定なのでしょうか。

地域戦略課長

この計画は5年計画となっていますが、毎年時点修正や見直しをしていく予定です。

濱委員

今回のコロナウイルスにより、市長や教育長におかれましては、大変ご苦勞されていると思いますが、ここで学校スタイルや生活スタイルは当然変わってくると思います。今回、永明小中学校は建て替え段階に入っていますが、今までの学校の形式では通用しないと思います。

今後、何らかの形で学校はこうあるべきだと示されたときに、設計などの変更をしていかなければなりません。まだ工事着工までには至っていないため、そういったことを含めると、ここで思い切って設計の変更をする大きな舵をきってほしいと思います。

教育総務係長

永明小中学校の建て替えを進めているところですが、現在進めている計画では、今後80年は維持できるようにと文科省より示されています。建て替えて20年後には大規模改修をし、もう20年たったらリノベーションをし、さらに20年後には大規模改修をするよう指示が出されています。

永明小中学校についても、その辺を見据えていかなければなりません。例えば将来の変化により様々な教室様式に変更できるような、臨機応変に対応できるような施設を考えています。

当初の計画段階では、コロナのことは考えていませんでしたが、コロナのことも見据えながら、計画を進めていきたいと思っています。

市長

これから詳細設計に入りますので、そうした考え方を入れ込む余地はまだあるかと思っています。今後、ご意見等ありましたら、是非言っていただければありがたいと思います。

その他ありますでしょうか。

勅使川原委員

オンライン教育など、ICT教育が進んでいかなければいけないからこそ、情報モラルやリテラシーなど当たり前のことは、確実に決まりとして抑えていかなければいけないと思います。小学校に入学した最初の段階から確実に進めていってほしいと思っていましたが、先日そのことについてお伺いをしましたら、体系的に年齢に合った指導を進めているという事を確かめることができ、安心しました。

また、オンライン授業を行っていくにあたって、小学生低学年の児童が自ら参加することはまだ少ないと思います。学校での対面指導も含めながら、細かく具体的な方法をきちんと押さえつつ、この教育を進めていかなければ、後になって大変なことになってしまうと思いますので、重ねてお願いをしたいと思います。

若者に選ばれるまち構想のイメージ図のところですが、トヨタタウンでも同じような構想を進めていると思います。そことどこか似ている部分があるように思いますが、茅野市としてはどうなのでしょう。

地域戦略課長

スーパーシティの取り組みとして、狙っている部分は一緒になります。しかし、1つ違うのは、裾野市では更地のところに新しい街をつくっています。そこが茅野市と少し違うところかなと思います。

市長

その他ご意見等ありますか。

全委員

なし。

市長

以上で茅野市総合教育会議を閉会いたします。大変活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。